



熊本信愛薔薇会
熊本市上林町3-18
TEL354-5355(代)
印刷 橋本印刷
TEL(0968)38-2020



会長挨拶
薔薇会会長 宮崎マサ子

同窓生の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より、会員の皆様には、同窓会の活動に温かいご理解と多大のご協力をいただき、心より感謝いたしております。

本年度も、同窓会活動目標「同窓会の輪を広げよう」を挙げ、本部役員一同微力ながらも精一杯務めさせていただきます。まず、本年度の主な事業をご紹介します。

- 一、年に一回の支部長会
- 一、母校の華秋祭(文化祭)・バザーへ参加
- 一、同窓生の作品展示、物品販売、食バザー(炊き込みおこわ)の販売。加えて、出店希望する支部の参加。
- 一、華秋祭へ還暦学年(本年は昭和四十二年卒業生)の招待。(県内在住者へ案内状発送)
- 一、「薔薇会だより」(同窓会新聞)の発行。(今より母校の中学・高校の全保護者にも配布)
- 一、クラス役員を中心とした同窓生の掘り起こし。
- 一、学校・同窓会・後援会との連携の強化。

昨今のはげしい少子化、そして男女共学志向にある中、母校への進学状況も満足いくものではない。そこで、同窓会は、母校と後援会との連携をより密にして生徒募集に努める。

一、母校への諸行事参加(運動会、クリスマス祭、体験入学、聖母祭等)以上のことを中心に進めていき、母校と同窓会薔薇会の発展のため努力したいと思いますので、皆様の更なるご支援ご協力をお願いいたします。



メール・ボルジア先生のことをお尋ねしますと、約八十年前のことなのに、今でもはつきり憶えていらつしやいました。

「ボルジア先生は、優しいというだけでなく慈愛に満ちた優しさで私達を見守って下さっていました。時々、授業中、校内巡視をされていましたが、先生は、なんとも言えない慈愛に満ちた優しい眼ざしで私達と会釈して通っていらつしやいました。言葉を交わさなくても、お会い出来ただけで嬉しかったですね。」

でも、厳しいところもありましたよ。私達が、廊下を走っていると、『誰ですか。廊下は静かに歩きなさい。』と注意されました。

私が、信愛で学んだ一番素晴らしいことは、私の人生の礎ともなった校訓「聖く、※正しく、美しく」をいただいたことです。毎日の生活を女学生として人間として、正しく美しく進みなさいと、優しく厳しく指導を受けました。本当に信愛で、ボルジア先生のもとで学んでよかったです。

戦災に遭い何もかも失い、苦しい生活になりましたが、どんなに苦しいことにもくじけず負けず、頑張つてくれました。いつも、私は、校訓「聖く、正しく、美しく」を守つて生活を送つてきました。長い人生を振り返るように、優しい眼ざしで話して下さいました。今も各教室の前面に掲げられている校訓「聖く、正しく、美しく」は、創立者メール・ボルジア先生の熱い教育精神だったのかと感動いたしました。

現代の社会が大きく変わり、伝統的な道徳が通用しなくなり、多くの子供達の心がすさんでいる今こそ、女性として豊かな心の育成や社会に貢献する人間の育成に努め、ボルジア先生の崇高な教育精神が、代々先生方に引き継がれ、熱心に教育活動が行われている母校・信愛女学院の存在が、求められているものと確信いたしました。

お願い

只今、同窓会ではボルジア先生に直接学ばれた同窓生、あるいはボルジア先生の写真やエピソードを探しています。情報がございましたら薔薇会へご連絡下さい。



昨今の教育
理事長 松尾 京子

一粒の麦が地に落ちて死ねば多くの実を結ぶ
聖書のことば

今年には熊本信愛女学院の設立母体である幼きイエズス修道会が創立百五十周年を迎えるに当たり、本学院の創立者ボルジア先生に少し思いを馳せたいと思います。明治十年、フランスから四人の修道女が異国の地日本に派遣されました。三〇〇年間の鎖国とキリシタン禁教令が解かれた四年後のことでした。

彼女たちは、祖国マルセイユから出航し、五十日の長い船旅の後、神戸に上陸。外国人居留地に住居を見つけ、旅の疲れを癒す間もなく、三才の女の子と生後二ヶ月の男の子をピリオン神父から託されました。「夜具も揺りかごもなく、赤ん坊を旅行カバンの中に下着を敷いて寝かせた。」と総長に書き送っています。二年後、孤児養育施設が創設されましたが、フランスとは異なる気候風土、生活習慣、苦しい経済事情の上に、伝染病が蔓延しやすい環境の中で子どもの養育は困難を極めました。中でも言語の習得には想像を絶するものがありました。更に禁教令が解かれて間もない時です。キリシタンへの偏見は根強く、シスターたちの仕事は理解されないばかりか、「シスターたちは子どもの肉を喰い血を吸う者」と中傷され、石を投げられ、唾を吐きかけられ、商店で



創立者を偲びつつ
信愛女学院校長 二平 京子

「愛と奉仕」の精神の種が、全国の至るところに・・・
厳しかった夏も過ぎ、心地好い季節を迎えました。金木犀が薫り、夜には澄み切った虫の音が響き渡っています。薔薇会の皆様にはご清祥にてお過ごしのことと心よりお慶び申し上げます。

さて、私は今年、天草と沖繩、石垣の支部会に参加する機会を得、同窓生の皆様と楽しい一時を共に過ごさせていただきました。ほとんどが初めてお会いした方々でしたが(クラス担任をした卒業生との懐かしい再会もありましたが)とてもそうとは思

も食料を売ってもらえず、両手に唾を吐きかけられながらも、「子どもたちには食べ物を売って下さい」と頼みました。
彼女たちは、困難にもめげず、神を信頼して、生活の中で神の愛を証し、愛こそ最高の価値であるという価値観を育んでいきました。
こういう精神を受継いだ本学院は、今日までに数多くの卒業生を社会に送り出しておりますが、その建学の精神が卒業生の皆様お一人おひとりの中に深く生き続けているのを感じます。

今年の四月、私はこの熊本に赴任してきましたが、僅か半年の間に、沢山の卒業生の方々にお会いする機会を得ました。ある方は素晴らしい主婦であったり、県庁や市役所の窓口で丁寧に接客なさっている方であったり、等です。またこの夏、熊本機能病院にちよつとしたことで入院したのですが、看護師の方々が仕事に対する熱意をもって温かい心遣いで働いておられると思つて見えました。実は、数名の方々が卒業生だと次々に名乗つてくただけに感激は一入でした。ここにも本学院の愛と奉仕の心が生活と仕事の中に生きていたのを見、とても誇りに思いました。この皆様の模範こそが周りの人々の心を温め、社会に潤いをもたらす、延いては、学院の発展に大きく寄与するものだと信じます。

皆様のご支援とご協力に感謝しつつ、ご活躍をお祈り申し上げます。

えない親しみに溢れた集いでした。三年間又は六年間の数多くの思い出が、驚きと喜びの内に、新たな意味をもって甦り、私たちの心をほのぼのと温めてくれました。
私は、高三の推薦入試希望者との面接で、いつも「一〇八年の歴史と二万人以上の卒業生を輩出している学校の校長印を受けた自覚と誇りをもって、各自の道を進むように」と話しています。しかし、此の度のように全国で明るく元気に活躍しておられる同窓生の方々にお会いすればする程、生徒たちへのこの言葉には実感と熱がこもります。

「愛と奉仕」の種として、皆様と共に、又皆様のようにならざるに飛び行き、それぞれ地で美しく咲く信愛生の育成に、皆様とご家族の上に、神様の祝福をお祈り申し上げます。

支部紹介

同窓会や学校からのお知らせが、確実に、早く、多くの同窓生の方々に届くように熊本県下に支部を設立しています。
また、各支部では、地域単位で同窓生の親睦をはかり楽しく活動しています。
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

- 薔薇会会長 宮崎マサ子
- 関東支部 支部長 川野映子
- 関西支部 支部長 里内ハマ子
- 宇土支部 支部長 内田道子
- 酒水支部 支部長 高見伸代
- 南阿蘇支部 支部長 長野敏子
- 合志支部 支部長 松本恵美子
- 植木支部 支部長 福島敦子
- 小国郷支部 支部長 北里香代
- 一の宮支部 支部長 松下玲子
- 熊本出水支部 支部長代理 森田英子
- 熊本中央A地区支部 支部長 松崎幸子
- 天草上島支部 支部長 平田美智子
- 石垣支部 支部長 高木千景
- 沖繩本島支部 支部長 山城俊子
- 熊本北部A地区支部 支部長 村上栄子
- 熊本西部A地区支部 支部長 田中美智子
- 熊本東部A地区支部 支部長 御法順子
- 熊本西部B地区支部 支部長 今村二重





第79回薔薇会大同窓会開催



平成20年3月16日(日)熊本ホテルキャッスルにて、第79回熊本信愛女学院薔薇会大同窓会を開催いたしました。昭和4年御卒業の大先輩から平成20年の卒業生まで、総勢302名が一同に会し、盛大かつ、和やかなひと時を過ごしました。今回は、初めての試みとして親子三代表彰と、特別表彰を行いました。親子三代表彰は、祖母、母、娘と三代にわたって母校で学ばれた三家族を表彰いたしました。特別表彰は、親子三代で信愛で学ばれたことはもちろんのこと、長年にわたり後援会長を務められ、母校のために貢献された谷脇ユミ子様に授与いたしました。



校歌斉唱 プラスバンド部の伴奏で



特別表彰



親子3代表彰



会長挨拶



最高齢出席者 高森久様 96才



母校新体操部の演技



懐かしい話に花が咲きます

支部だより

天草上島支部 同窓会を開催して



支部長
平田美智子

平成二十年七月二十六日、松島総合センター「アロマ」にて天草上島支部総会及び懇親会を開催いたしました。学校から二平校長先生、山田教頭先生のお二人、それに恩師の吉村正美先生、兼子春美先生にも、ご出席いただきました。また、薔薇会本部から役員の方の参加を深く感謝いたします。

宮崎同窓会長や校長先生のお話の中で印象深かったのは、創立者メルボルニア先生の「愛と奉仕」の精神が、約七〇名の卒業生によって、天草の地に受け継がれているということです。そして、卒業生が天草で頑張っていることがたいへん嬉しいことだと言われました。

それらの話を伺って、信愛で学んだ三年間が、今の私達にも強い影響を与えていると感じました。次に休憩をはさんで、去年まで信愛の理事長補佐として勤務しておられた宮本英利先生に、「生きる力を求めて」と題して講演を頂きました。

総会が終わり、上天草のホテル「ろまん館」に移動して懇親会を行い、先生方や卒業生の近況報告や懐かしい話で盛り上がりしました。そして何より賑わわせてくれたのが、倉岳町の「こっば劇団」でした。

天草に住んでいながら、初めての観劇でした。昔ながらの「こっば」の作り方おもしろおかしく、また人権問題なども取り入れながら劇にして、皆さんを笑わせてくれました。

驚いたことに、劇団員の中に卒業生がおり、恩師である兼子先生との対面も感動的でした。終わりに、本会を開催するにあたり、ご協力いただいた支部の役員の方には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。新たな役員も加わり、これを機に、いろいろなことにチャレンジして、熊本の活性化にも力を入れていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

同窓生訪問

今回は、昭和四十三年商業科卒業の西橋(旧姓加藤)清美様をご紹介します。西橋様は本校卒業後、名店会(現NCくまもと)に就職、昭和四十九年に熊本市新市街の創業一〇一年の老舗、菓舗四ツ目本店三代目店主のご主人と結婚され、以後、三十五年間、ご主人と二人三脚で歩んでこられました。

「西橋さんが、お仕事をされる上で心がけておられることを教えてください。」
ご存知のとおり、四ツ目本店は和菓子店です。

「何よりもまず、「和」を大切に考えており、そして人の心を和ませる味づくりを心がけています。」

創業以来、四ツ目饅頭は家紋を基にした形をそのままに、国産の小豆を使って餡から手作りし、店主自らひとつひとつ丁寧に手焼きしています。私自身は、現在、店の経営全般に携わりながら、異業種交流会などにも参加して充実した毎日を過ごしております。また、人との会話の中からいろいろなことを吸収して、お店に新しい風を取り入れています。

「信愛での生活はいかがでしたか？」



四ツ目饅頭

お忙しい中、新市街のお店でインタビューに答えていただきありがとうございました。

実家の裏に住んでおられたおねえさんが信愛生だったので、自分も信愛に行こうと思っていました。本当は家庭科コースを希望していましたが、父の強い勧めで商業科に進学しました。今となっては、自営業に嫁ぎましたので、その方が良かったのかもしれないですね。

学校生活では厳しいと思っこともありました。たとえば、朝会するとき、教室から講堂へ移動する時、途中の廊下で先生方が、髪型、服装などをチェックされていました。何も違反していないはずなのに、靴下の折り方などちゃんと出来ていたかしら・・・とふと、不安になり、緊張したものです。今思うと、その厳しさが信愛の良いところなのですね。また、青春の一番多感な時期に宗教に触れたことは、私の精神面に良い影響を与えたと思います。修学旅行で兵庫県の仁川本部修道院へ行ったことを印象深く覚えております。



左/西橋様
右/お店を手伝ってもらっている前田真澄様(S43卒)

部活動支援への御礼

平成20年度も全国高校総体および俳句甲子園出場を支援するために物品販売(兼麺1箱2,000円)に参加いたしました。学校全体の販売数は1,310箱、そのうち429箱は同窓生の協力によるものです。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

薔薇会本部	110	関東支部	52
合志支部	30	関西支部	60
植木支部	100	薔薇会コーラス	23
東部A地区支部	24	合計	429箱
天草上島支部	30		

編集後記

この度の会報発行にあたり、ご協力くださいました皆様に、心より厚く御礼申し上げます。薔薇会は、同窓生の輪を広げるとともに、母校の発展を目標に活動しています。情報などございましたら、お知らせ下さい。また、役員も広く募集いたしております。今後とも、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。
編集委員一同